



## 天国民、義王、聖徒、大祭司

### 福音書の構成

福音書 (過越成就)	マタイ、マルコ 正しさ、仕える	ルカ、ヨハネ いのち、聖さ
マタイ、ルカ 系図あり 山上の説教、平地の説教 祈りの教え 律法と預言者 サタンとの対話	<b>マタイ：国民</b> アブラハム、ダビデの系図 ダビデの子 天の父、天の御国 正しい 成就した	<b>ルカ：聖徒</b> アダムの系図 子 聖霊 金持ち
マルコ、ヨハネ 「はじめに」ではじまる 信じる	<b>マルコ：王</b> 主のしもべ、仕える者 直ぐに 群衆が集まる 言うな、公にしない	<b>ヨハネ：大祭司</b> 御父の子 父、信じる、世、ユダヤ人 祭り、奇蹟、愛する、いのち、 真理、証言、キリスト、とどまる 光、子を通して

- ・神となり民となる。父となり子となる。マルコ、ヨハネは、神はだれか。マタイ、ルカは、民はだれか。
- ・義と聖。正しさときよさ。マタイ、マルコは、正しい国民、あわれみの王。ルカ、ヨハネは、いにしえの大祭司と清められる民。
- ・羊飼いと羊の群衆。王である大祭司が導き、教えに聞き従う羊は、天の御国に入り、聖霊を受ける。
- ・マルコ：翌朝早く、主に仕えるしもべは、へりくだる、あわれみ深い王である。
- ・マルコ：主のしもべ：「あたしのしもべ」アブラハム、モーセ、ヨシュア、ダビデ、ヨブ、ヤコブ、イスラエル。
- ・マルコ：メサイアであることを隠す。イザヤ42 あたしのしもべ...彼は叫ばず、声をあげず、ちまたにその声を聞かせない...
- ・ヨハネ：大祭司アロンは、モーセの「ことば」である。  
Ex4: 15-16 あなたが彼に語り、その口にことばを置くな、あたしはあなたの口とともにあり、彼の口とともにあって、あなたがたのすべきことを教えよう。彼があなたに代わって民に語るなら、彼はあなたの口の代わりとなり、あなたは彼に対して神の代わりとなる。

救いのストーリーについてみています。

神様の御国が建てあげられる、喜びの愛のストーリーということです。その最初のところに、福音書、御霊行伝、手紙、黙示録。この福音書は、過ぎ越しの成就である。

福音書は4つある。その4つはどのような関係なのでしょう。

マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネと配列されています。マタイとルカの共通点、マルコとヨハネの共通点、マタイとマルコの共通点、ルカとヨハネの共通点、そしてそれぞれの特徴ということがこの紙です。大きな流れとしては、マタイは国民。国民に対してのマルコは王。ルカはきよい者たち、聖徒。

それに対しての聖い大祭司という、王側、支配する側(マルコ、ヨハネ)と、支配される側(マタイ、ルカ)。

父側(マルコ、ヨハネ)と子たち(マタイ、ルカ)。リーダー、夫(マルコ、ヨハネ)と妻(マタイ、ルカ)というような形で、父(マルコ)と子(マタイ)、夫(ヨハネ)と妻(ルカ)みたいなのかな。

4つの構成、4つのものですが、こちら(マタイ、マルコ)が善悪、こちら(ルカ、ヨハネ)が命。正しさ(マタイ、マルコ)と聖さ(ルカ、ヨハネ)。正しさと聖さ、命について、という構成で見ることができるといえるだろうと。

マタイとルカには系図がある。それで教えも祈りもある。律法と預言者ということが書いてある。誰が正しい国の王の国民なのか。父の子どもなのか。誰が聖霊を与えられるきよい者なのか。誰が子どもとして受けるその特別の祝福を得られるのか。永遠の命をもらえるのは、誰なのか。これがルカ福音書。金持ちなのか御霊なのか金なのか。この世の富なのか、永遠の富なのかという対決は、ルカ福音書に多い。

父の国、天の父、天の御国、何々が成就した、言われたことが成就しました、約束の子どもになりました。ダビデの子であるということがマタイ福音書で何度も言われますね。

山上の説教、平地の説教などがあって、これは教えられている、教えを受けている、特別の祝福を受けている国民である聖徒であると。

マルコ福音書とヨハネ福音書。ヨハネ福音書の方は、天の父が強調されているというよりは、父の子であることが表されている。子を信じる者は父を信じる。父と子が一つだということが、このヨハネ福音書ですつと言われています。このヨハネは大祭司としてのイエスを表しています。

マルコもヨハネも「はじめに」で始まっています。神側(ヨハネ)と民側(ルカ)といつている。「神となり民となる」という契約の一致のいい方です。結婚式の言い方も私はこの人を夫にします、この人を私は妻にしますという言い方で、契約の儀式が行われるのと同じように、「私は神となり、あなたは民となる」というのは、神様と民が一つになるという誓いの言い方。「私は父となりあなたは子となる」というのもその言い方になります。

マルコとヨハネは神様は誰なのか、マタイとルカは民は誰なのかとまとめられてます。

義と聖さ、正しさと清さ。羊と羊の群れ、王様側は羊飼、王である大祭司、大牧者。その教えに聞き従うのが羊の方ですので、この教えが強調されているのはマタイとルカ。天の御国に入る人は御霊を受ける。

問題になるのがマルコ福音書。マルコ福音書は他の書物よりも特徴が少ない。非常に特徴が少なく、王としてのキリストはマタイ、マルコはしもべ、ルカは人、ヨハネは神と分類されることが多い。

私たちはそうは見えていない。マルコは王と言ってますけれど、どうしてマルコは王だと言えるのかということを説明しています。少ない特徴の中で一番目立つのは「すぐに」ということ。そして「すぐに」これをしたと40回ぐらい。表面に表れてるものとしては「すぐに」が多い。「すぐに」という言葉から思い浮かべると、「翌朝早く」という人たちがいました旧約時代に。「すぐに」という言い方の別の言い方だと思います。翌朝早くこうしたということが何度も言われてる。主に仕えるというテーマは、このマルコ福音書が主のしもべだと言われるしもべとしてのキリストと言われる時に、一生懸命働いてるものみたいな言い方をされています。「すぐに」仕える者であるということですが、特に旧約時代に主のしもべと言われる人は誰なのか。

神様が私のしもべですと呼んでくれるのは誰なのか。アブラハム、モーセ、ヨシュア、ダビデ、ヨブ、ヤコブ、イスラエル。名だたる人です。この「私のしもべ」が特別に多いのはモーセとダビデ。私のしもべダビデ、私のしもべモーセ。これは主のしもべと言う時に、ただ奴隷ですと言ってることではなく、神様の本物の王様なんですね。あ

われみ深いへりくだった王であるということが、このマルコ福音書のテーマであることが「すぐに」ということが強調されていることによってわかる。

もう一つ面白い特徴としては「これを言うな、公にするな」ということが、マルコで何度も出てきますね。メサイアであることを隠してるような言い方が出てくる。これなんだろうって皆思うよね。言うな。何で言わないだろう。イザヤの42章にあるように、「私のしもべ、彼は叫ばず声をあげずちまたにその声を聞かせない。」イザヤ42章で私のしもべについて言っています。その声は全地に響き渡る声のはずなのに、私のしもべは実にその仕える者であることを強調するためにも、このメサイアであることを隠していることは、そのことを表しているのであろうと思われます。

マルコ福音書は主のしもべなんですけれど、マルコ福音書は 私たちの王は実に神様のしもべ、新しいモーセ、新しいダビデであることが、この福音書で表されている。

おまけとしては大祭司アロン。ヨハネがことばであったって言うところから始まる。それは大祭司アロンはモーセのことばだったんだよね。神様のことばとしての大祭司の働きということが、出エジプト記の4章にある。そのことを通しても、このヨハネ福音書の出だしに「ことばであった」ということは、大祭司としての働きを強調している言い方なんだろうということも思えます。

リーダー側(マルコ、ヨハネ)と民側(マタイ、ルカ)、神様側(マルコ、ヨハネ)と民側(マタイ、ルカ)、正しさ(マタイ、マルコ)ときよさ(ルカ、ヨハネ)ということでこの4つの福音書が構成されている。